

対話活動を充実させる多様な学習形態の工夫

「話すこと[発表]」領域の指導時、このような生徒の姿を見たことはありませんか。

- ・話すことに自信がもてず、発表になると口を開かなくなる。
- ・自分が話している英語の間違いに気付けない。

上記のような姿の生徒に対して、個人端末を活用して自己及び他者との対話活動を充実させ、話している英語を客観視させることで、話す英語の流暢さと正確さの向上を目指した授業実践を紹介します。

自己及び他者との対話活動を充実させる「筆記ランゲージング」と「相互分析活動」

プレゼン トピック の提示

スライドアプリを用いて10分間でスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をします。

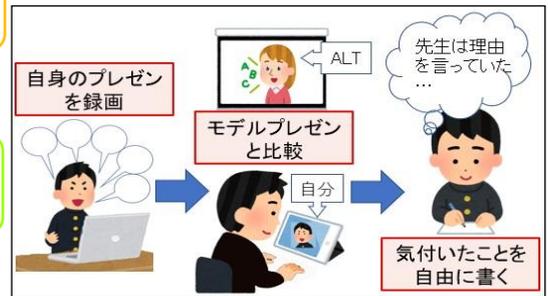
プレゼン ①

パートナーに対して1分間でプレゼンテーションを行い、個人端末に録画します。

ポイント!

筆記ラン ゲージ ング

【ポイントその1】「筆記ランゲージング」を通して自己と対話する
①で録画した自身のプレゼンテーションを、あらかじめALTに作成を依頼したモデルプレゼンと比較し、内容や文法・語法等に関する気づきを自由に書き出します。



モデルとの比較を通して自分の話した英語と向き合うことで、自分の話す英語の課題が明確になり、次のプレゼンテーションにおける流暢さと正確さの向上につながります。

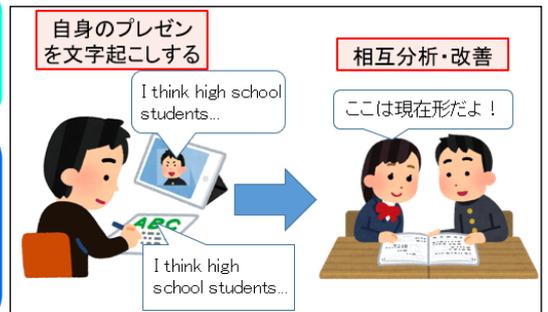
プレゼン ②

課題を修正後、再度、パートナーに対して1分間でプレゼンテーションを行い、個人端末に録画します。

ポイント!

相互分析 活動

【ポイントその2】
「相互分析活動」を通して他者と対話する
②で録画したプレゼンテーションを文字起こしし、文法・語法の正しさの観点からパートナーと相互分析・改善作業をします。



パートナーとの対話を通して、再度自分の話した英語と向き合うことで、自分の話す英語の特徴と課題に改めて気付くことができ、次のプレゼンテーションにおける正確さの向上につながります。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

- 個人端末のビデオ機能を活用することで、自分の話した英語を視覚的に確認でき、生徒は自分の話す英語の課題に気付けるようになりました。さらに、パートナーと相互分析・改善作業をすることで、自分の話す英語に対して自分だけでは気付けない改善の視点をもつことができるようになり、話す英語の流暢さと正確さの向上につながりました。
- 個人端末を活用して自己及び他者との対話活動を充実させることで、生徒は自分の話した英語を客観的に振り返って変容を捉えることができ、話すことへの意欲の向上につながりました。

授業改善の工夫	対話活動を充実させる多様な学習形態の工夫
---------	----------------------

英語科（英語コミュニケーションⅠ）学習指導案		普通科第1学年
単元名	Lesson 2. Hold On, Anzu! (Heartening English Communication I)	
単元のねらい	<p>(1) 自分の考え、気持ちなどを話して伝えるために必要となる語彙や表現を理解できる。</p> <p>(2) 日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報の概要、詳細などを的確に捉えることができる。</p> <p>(3) 日常的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、視覚教材も活用しながら1分程度英語で話して伝えることができる。</p>	
単元の流れ	<p style="text-align: right;">(全9時間)</p> <p>Part 1 (2時間) 教科書本文の内容理解(Listening/Reading), 発表活動(Speaking)</p> <p>Part 2 (2時間) 教科書本文の内容理解(Listening/Reading), 発表活動(Speaking)</p> <p>Part 3 (2時間) 教科書本文の内容理解(Listening/Reading), 発表活動(Speaking)</p> <p>Part 4 (2時間)【事例有】 教科書本文の内容理解(Listening/Reading), 発表活動(Speaking)</p> <p>まとめ(1時間) 重要文法事項の確認</p>	
準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容理解のためのワークシート ・筆記ランゲージング※シート ・文字起こしシート ・振り返りシート ・生徒個人端末 <p>※自分が話したり書いたりした英語をモデルとなる英語と比較し、内容や文法・語法等に関する気付きを自由に記述することで、自身の英語を洗練させていくプロセス</p>	

◇本時のねらい（第8時）

・若者が SNS を長時間使うことについて賛成か反対か、自分の考えを、理由とともに話して伝えることができる。

◇指導過程

段階	学習活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価【観点】(評価方法) ※評価はAの具体的な姿の例と、Cへの手立ても記す
導入	1. ウォームアップ (1) 挨拶をする。 (2) 教師が、若者が SNS を長時間使うことに対する自分の考えを、話して伝える。	2	◇この後のプレゼンテーション活動で生徒が活用できるような表現を含める。
	若者が SNS を長時間使うことに賛成か反対か、理由とともにパートナーにプレゼンしよう。		
展開	2. プレゼンテーション① (1) 若者が SNS を長時間使うことについて賛成か反対かについて、パートナーに1分間でプレゼンテーションできるように、各自個人端末で材料を探し、練習する。 (2) 個人端末で作成したスライドを見せながら、若者が SNS を長時間使うことについて賛成か反対かについて、パートナーにプレゼンテーションを行い、その様子を録画する。	18	◇自分の考えの支えとなるよう、10分間で、個人端末を用いてスライドを作成し、頭の中でリハーサルさせる。その際、一定の即興性を担保するため、スライドには視覚資料のみを載せ、原稿は書かないよう指示する。 ◇個人端末でスライドを提示させるとともに、次の活動に向けて自分のプレゼンテーションを録画させる。
	3. 筆記ランゲージング 上記2.(2)で録画したプレゼンテーションを、ALT のモデルプレゼンと比較し、筆記ランゲージングを行う。その中から次のプレゼンテーションで改善したい自らの課題の一つ挙げる。	10	◇自身のプレゼンテーションの課題を意識させるために、気付いたことを筆記ランゲージングシートに自由に記述するよう伝える。書けない生徒に対しては、音声面、文法・語法面、文の構造面など、比較する際の視点を与える。気付いたことの中から、次のプレゼンテーションに向けて改善したい自らの課題の一つ選ばせ、振り返りシートに記入させる。【ポイント1】
	4. プレゼンテーション② 上記3を基に発表内容や表現を改善し、再度パートナーにプレゼンテーションを行い、その様子を録画する。	5	
	5. 相互分析活動 上記4で録画したプレゼンテーションを文字起こしし、文法・語法の正しさの観点からパートナーと相互分析・改善作業をする。文字起こしした英文の中から次のプレゼンテーションに向けて改善したい1文を選び、自身で書き直す。	10	◇文法・語法面での課題を意識させるために、パートナーの文字起こしした英文に対して、明らかに間違いと感じたものは○で囲み、おかしいと感じるが直せないものには下線を引かせる。自分の文字起こしした英文の中から、次のプレゼンテーションに向けて改善したい1文を選ばせ、自分で書き直しをさせる。【ポイント2】 ◆若者が SNS を長時間使うことについて賛成か反対か、自分の考えを、理由とともに話して伝えている。【思】(プレゼンテーション) A:与えられた条件に従いながら、若者が SNS を長時間使うことについての自分の考えを、客観的な視点から、理由とともに伝わりやすい英語で話して伝えている。 C:理由を考えるための視点や、理由を述べるための表現についてヒントを与える、他の生徒が書いている理由を伝えるなどの支援を行う。
	6. 振り返り 振り返りシートに、本時の活動に対する自己評価を記入する。	5	◇自分が話した英語を内容、表現の両面から客観的な視点で捉えて自己評価するよう促す。
まとめ			